

2021年1月22日

2020年度 特定行為研修シンポジウム

患者・利用者のニーズにそった
特定行為研修修了者の活動と活動支援の方策
～慢性期病院の管理者の立場から

医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院
看護部長 小澤美紀

内容

- 鶴巻温泉病院概要
- 当院の看護師特定行為
- 活動状況
- 活動推進のサポート
- 活動成果
- 課題と今後の展望
- まとめ

鶴巻温泉病院概要

- ◆所在地：神奈川県秦野市
- ◆病床数：一般・療養病床505床
介護医療院52床

- ◆病棟区分：

- 回復期リハビリテーション病棟 1 (206床)
- 医療一般・障害者施設等入院基本料(55床)
- 医療一般・特殊疾患病棟 1 (60床)
- 医療療養病棟 入院料1(120床)
- 医療一般・緩和ケア病棟 2 (25床)
- 地域包括ケア病棟入院料 2 (39床)

- ◆主な職員数：

- 常勤医師24人、看護職220人、介護職130人

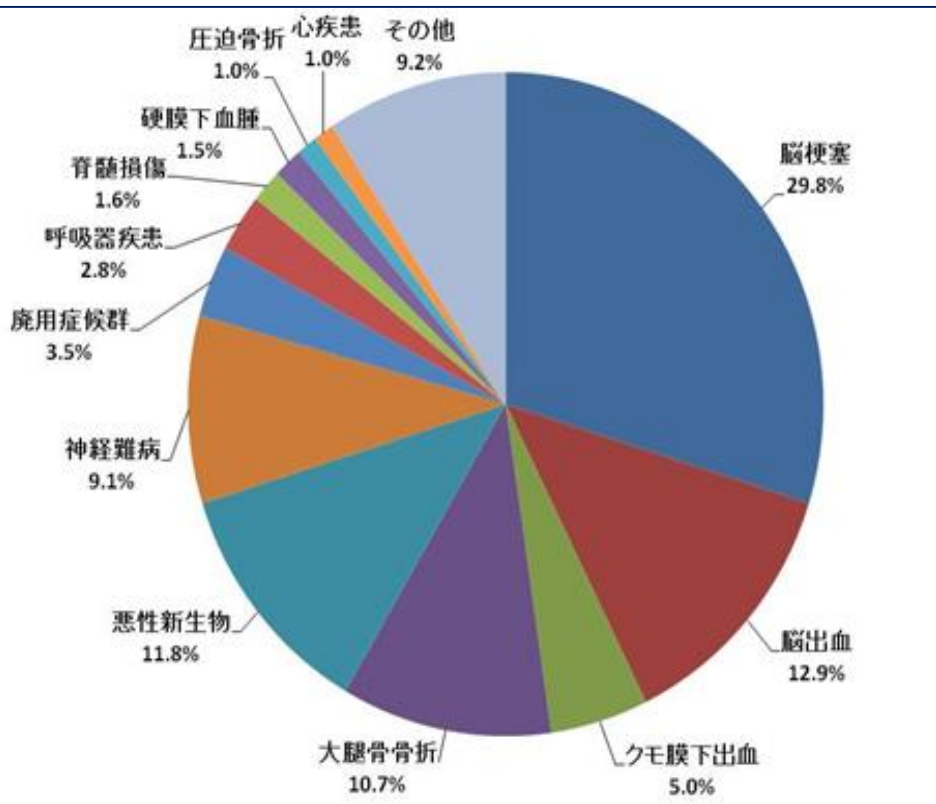
- ◆関連施設

- 介護老人保健施設、高齢者複合施設、訪問看護ステーション



入院患者概要

① 主な疾患



② 主な医療的ケア

内容	人数
人工呼吸器管理	13人
酸素吸入	43人
気管カニューレ管理	101人
胃瘻管理	98人
褥瘡処置	19人
中心静脈カテーテル管理	18人

2020年9月実績

当院の特定行為研修修了看護師

＜日本慢性期医療協会＞

2016年10月
7区分14行為
修了

①

2019年4月
9区分16行為
修了

⑤



6人目を目指し
2019年10月
入学

④

2018年4月
8区分15行為
修了

③

2017年10月
7区分14行為
修了

②

2017年4月
7区分14行為
修了

当院の看護師特定行為

特定行為区分	特定行為	1~3人目	4人目	5人目	6人目
1. 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	①侵襲的陽圧換気の設定の変更 ②非侵襲的陽圧換気の設定の変更 ③人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 ④人工呼吸器からの離脱	●	●	●	●
2. 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	⑤気管カニューレの交換	●	●	●	●
3. 栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	⑥中心静脈カテーテルの抜去		●	●	●
4. 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	⑦末梢留置型中心静脈注射用カテーテル(PICC)の挿入			●	●
5. 創傷管理関連	⑧褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 ⑨創傷に対する陰圧閉鎖療法	●	●	●	●
6. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	⑩持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ⑪脱水症状に対する輸液による補正	●	●	●	●
7. 感染に係る薬剤投与関連	⑫感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	●	●	●	●
8. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	⑬インスリンの投与量の調整	●	●	●	●
9. 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	⑭抗けいれん剤の臨時の投与 ⑮抗精神病薬の臨時の投与 ⑯抗不安薬の臨時の投与	●	●	●	●

特定行為研修に積極的な理由

◆院長が強く推奨

◆看護部長として

- ①特定看護師（仮称）養成調査試行事業に参加。
患者の病状、疾患の包括的なアセスメントができる。
治療が理解できる。etc.

→ 医師が少ない慢性期の現場で、看護師が力になれる！

- ② 〴〵強みを持った看護師になってほしい、
- ③ 看護師の専門性を高めたい

特定行為研修修了者の位置づけと役割

◆所属・位置づけ

- ・ 1人目 :看護科長→関連施設の介護老人保健施設へ副施設長・看護長として出向
- ・ 2人目 :副看護部長
- ・ 3,4人目:病棟看護科長
- ・ 5人目 :看護科長→訪問看護ステーションに出向
- (・ 6人目 :病棟看護副主任)

◆役割

- ・ 質の高い医療・看護の提供
- ・ 職員の育成（院内外）
- ・ 協力施設として、実習生受け入れと指導
- ・ 指定研修機関における育成への協力

活動の実際

修了者	主な活動
1人目	手順書整備、システム構築後、2017年4月に法人老健副施設長・看護長として出向。不定期で院内活動に参加。
2人目	褥瘡委員会に所属し、褥瘡関連の特定行為から開始。毎週の褥瘡回診に参加し、医師の指導を受けながらスキルアップ。NPWT*を院内に浸透。
3人目	
4人目	2018年7月～、3人でチームを作り、医療療養病棟の気管カニューレ交換開始。その後、神経難病病棟に活動を広げる。創傷管理関連行為、中心静脈カテ抜去の実践。
5人目	カニューレ交換、創傷管理関連行為。2020年4月に訪看出向。
6人目	病棟業務の傍ら、行為取得に向けて準備中。



*局所陰圧閉鎖療法

気管カニューレ交換

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2		1	2	3	4	5	6
			4西	4西													2東			
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
			2東								2東						4西	4西		
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
			4西	4西						4西	4西									
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25		
																	4西			
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
		4西	4西				31			4西	4西									

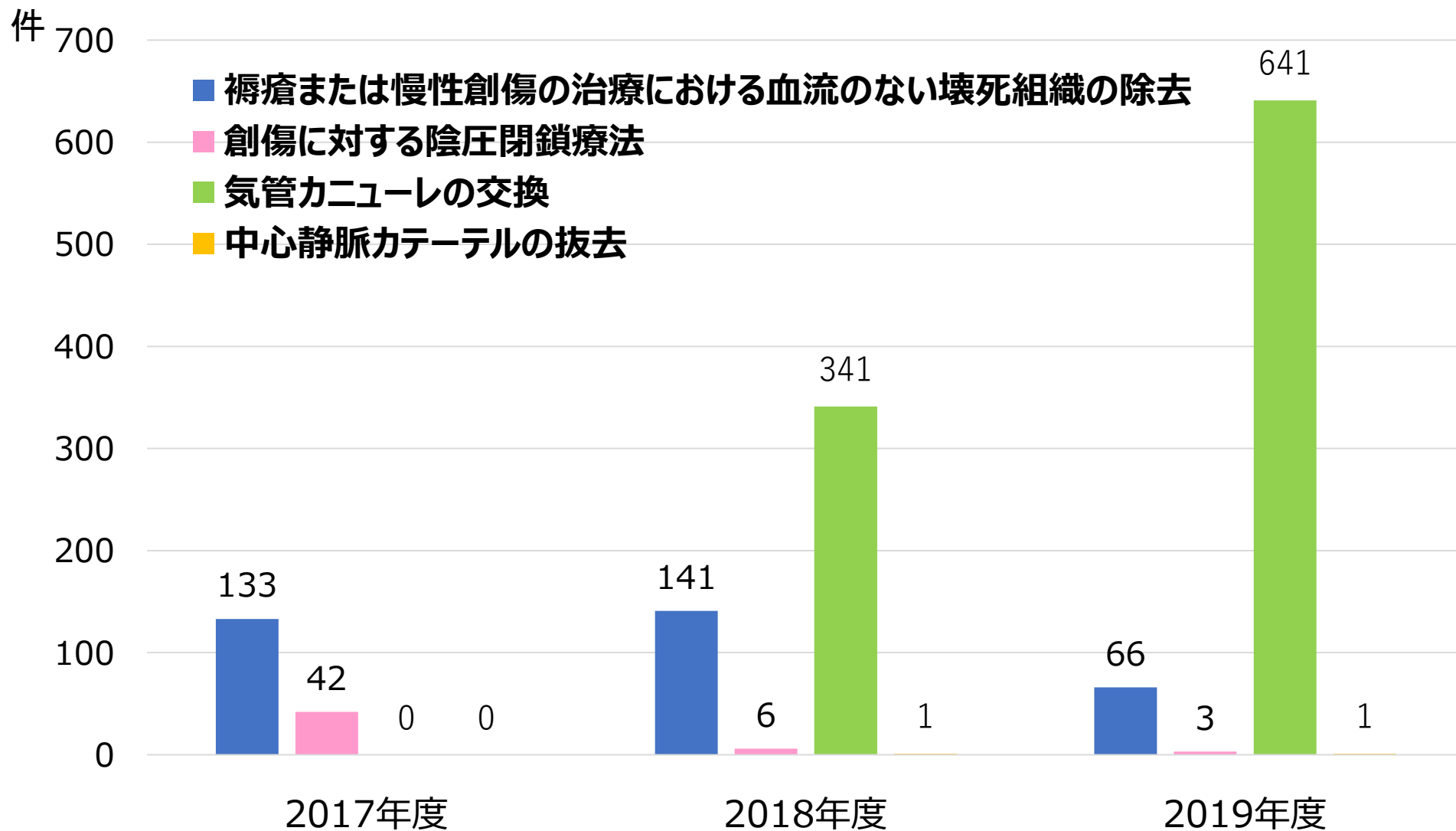
7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5
			2東														4西	4西		
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
			4西	4西						4西	4西									
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
																	4西	4西		
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
		4西	4西							4西	4西						2東			

＜年間交換表＞

- 9:30～2-3人のチームで実施
- 1日の交換人数が12-13人になるように調整
- 患者を受け持ち制として、変化を察知できるように工夫
- 肉芽や気切口を観察し、カニューレの種類やサイズの変更などを医師に提案
- 病棟スタッフから情報を収集し、スタッフも巻き込む



2017年～2019年 看護師特定行為実績



活動推進のサポート（初期）

◆周知

- ・医師に対しては、診療部会議（毎週）の場で、院長ならびに看護部長から繰り返し説明と協力依頼
- ・看護部に対しては、看護部通信にてアナウンス
- ・患者・家族に対しては、院内の複数個所に掲示
- ・本部会議、法人会議の場で看護部長からアナウンス

◆組織体制

- ・「看護師特定行為研修委員会」の運営
- ・実習、スクーリングはすべて研修扱い



活動推進のサポート（現在）

◆組織体制

- ・活動時間の確保

◆啓蒙活動

- ・外部への派遣（研修講師、教材作成など）

◆ブラッシュアップへの支援

- ・追加受講への支援



活動の成果

◆患者・家族

- ・ケアに対する信頼。迅速に対応し、患者さんを待たせない。

◆医師

- ・医師の多忙・不在を補完し、業務量負担軽減に貢献
- ・処方など、医師が医師でなければできない業務にあてる時間を作る一助 → **効率化**
- ・‘自分の患者にも介入してほしい’という声

◆看護師

- ・ケアの伝授、‘自分も目指したい’
- ・法人内看護師も触発され受講！

◆その他

- ・医療材料の見直し



活動の成果

◆本人

- 医師の思考や治療の意味が理解でき、医師がどのような情報を求めているのか考えられるようになった。
- 医師だけではなく、他職種の考えも理解できるようになった。
- 間近でスタッフ個々の看護実践を見ることができ、タイムリーに語り合える機会が増えた。
- 時間の使い方が上手くなった。
- 患者や家族の思いをくみ取り、代弁する役割を実感。

活動の成果

◆看護管理者

- ・より患者に寄り添った看護。深みが増した。
- ・看護の「技」を実感！
　　〴〵生き生き感、オーラ！
　　→看護の楽しさがあふれている！！



課題と今後の展望

- 手当の付与
- 定期活動報告→成果を可視化する
- 実践行為の拡大
- 全病棟に配置したい！ →次世代の選出
- 地域で活用できるしくみ作り



まとめ

実践的理解力、思考力、判断力、ならびに高度かつ専門的知識、技術を備えた特定行為研修修了看護師は、患者のニーズに沿った質の高いケアを提供し、患者・家族の安心、満足を生み出すことができる。

看護管理者として、今後も支援を続けていく。